

将来、あちこちの団地でヤギを飼う?



### 癒やし効果で高齢者にも好評

東京・町田市の町田山崎団地で2013年9月から行われたヤギによる除草の実証実験。住民に対する癒やし効果も顕著だった。11月末に行われたサヨナライベントには子どもから高齢者まで多くの住民が集まった。「とてもかわいくて、癒やされました。散歩のとき、見るのが楽しみでした」との感想や、「今年だけでなく、ぜひとも毎年飼ってほしい。子どもにとっても、暮らしの中に生き物の姿があるのは非常にいいことだと思います」といった意見が聞かれた。(写真:望月仁)

# セカンドライフを豊かに!

〈豊四季台の生きがい就労〉

団地住民に限らず、柏市民を対象にした就労セミナーを、東大IOGが7回開催。延べ約570人の参加者が集まった



## 就労セミナー

延べ約570人が参加

## 保育・子育て・学童保育

約30人が就労



豊四季台団地内にある幼稚園で絵本の読み聞かせを行う高齢者。近隣の幼稚園での就労のほか、小学生や中学生に英語を教える就労も実施している

## 農業

約50人が就労



団地内に設置された植物栽培ユニット(上)。中では白衣を着て働く。室内作業で、力仕事もあまりないため高齢者でも無理なくできる(左)。柏市内の農地で働く農業就労もやっている(右)



「植物栽培ユニット」なのだ。柏市、東京大学高齢社会総合研究機構(以下東大IOG)、UR都市機構の3者は、豊四季台団地を舞台に「長寿社会のまちづくり」プロジェクトを進めている。その柱の一つに「生きがい就労の創成」がある。就労のモデル事業の一例として、UR都市機構が敷地を提供し、東大IOGが民間事業者からユニットの寄贈を受け、高齢者が野菜作りに挑んでいる。

プロジェクトでは、もう一つの柱として在宅医療の推進にも取り組んでいる。今春にはサービス付き高齢者向け住宅と在宅療養支援診療所などを一体化した施設が完成。地域医療の拠点が動き出す。今後、就労支援や在宅医療を推進して、「地域で活躍しながら、いつまでも在宅で安心して暮らせるまちづくり」を目指す。

生きがいのために働いて  
無理なく、楽しく、地域に貢献

PART 3

とよしきだい  
豊四季台団地(千葉・柏市)※3